


「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール 2016」日本招聘 訪日感想文



 公益財団法人日本科学協会
業務部 国際交流チーム

目 次

★「日本知識大会」訪日団

武漢大学 副教授 夏晶	2
武漢大学 日本語学科 4年生 胡益頤	2
武漢大学 日本語学科 4年生 柯偉	5
武漢大学 日本語学科 修士課程 2年生 梁丹璐	6
中央財經大学 日本語学科 3年生 趙瑜佳	7
中央財經大学 日本語学科 3年生 凌歡歡	8
中央財經大学 日本語学科 2年生 黃璐	8
吉林大学珠海学院 日本語学科 4年生 陳佩芝	10
吉林大学珠海学院 日本語学科 4年生 龐雅勻	10
吉林大学珠海学院 日本語学科 4年生 吳浩炜	12
湖北大学 日本語学科 4年生 田靜	13
湖北大学 日本語学科 4年生 馮悦	14
湖北大学 日本語学科 4年生 任治林	15
蘇州大学 日本語学部 4年生 姜英澤	15
福建師範大学 大学院 修士課程 1年生 盧鳴	16
吉林華橋外国語学院 日本語学部 4年生 鐘潔玲	17
上海外国語大学 日本文化經濟学院 大学院 2年生 沈璐璐	18
華中科技大学 日本語学部 4年生 舒鈺雯	19

★「笹川杯作文コンクール」訪日団

浙江農林大学 日本語科 4年生 童隆	20
北京外国語大学 日本語学科 3年生 馮心鶴	21
東華大学 日本語科 3年生 吳冰潔	21
湖北民族学院 日本語学科 4年生 張孟傑	23

★「“本を味わい日本を知る”作文コンクール」訪日団

北京大学 法学院 商法修士課程 2年生 汪書璇	23
雲南大学 文化發展研究院 文化産業修士課程 3年生 龐昆靜	24

★「笹川杯全国大学日本知識大会」訪日団

武漢大学 副教授 夏晶

訪日の感想



一期一会。

訪日のたびに仲間も体験も異なり、収穫はすべて大切な思い出になっています。

日本の学生が何人も交流会で「先生、私は中国が好きです！」とってくれました。率直に言うと、中日関係に深い霧が次々と重なっている現状で、こうした率直な情熱にとっても感動しましたが、ほんの少し意外でした。そこで私は彼らに一体中国の何が好きなのを聞いてみました。

名所旧跡、唐詩や宋詞、三国志などの中国の伝統や文化の魅力がそうさせるのだと思っていましたが、学生達の回答は再び私の予想に反しました。

彼らはみな中国に旅行や留学した経験があったのです。北京、深セン、西安……異なる場所ですが、彼らが共通して感じたのは近代的な中国が彼らの想像していた中国と全く違うことで、彼らが好んでいるのは真実な「生きている」ほうの中国です。

百聞は一見にしかず。

今回の学生訪日団も同じことをしていると思います。中国の学生にとって、書物の中での日本、メディアの中での日本、アニメやマンガの中の日本はすべて、今回の旅行の中で自ら経験する日本の真実にははるかに及びません。

この真実を好む若者たちは、今回のイベントでいっしょになったとき、たった 5 分ほどの「アイスブレیکنング」ゲーム、名前しりとりだけですっかり親しくなり、言いたいことを思う存分言えるようになりました。またいっしょに東京を遊んで回り、半日弱の時間でもう打ち解けて屈託なく笑う SNS の親友となっています。

本当にとても感慨を覚え、中日関係の「アイスブレیکنング」もこのぐらい簡単ならよいのと思いました。

尾形理事長が率直におっしゃっていましたが、日中関係の将来は「老人」には期待できません。若者でなければ棟木を引き起こせないのです。

前途は難しいですが、この若者たちの偏見を持たない真実な接触と交流は、まだ蓄積されたことがありませんが、ちりも積もれば山となります。

ファインダーの向こうの彼らは調和がとれて自然で、すばらしくて絵のようでした。

和氣霽々と談笑する若者たちに私は望みと確信でいっぱいになりました。(原文中国語)

武漢大学日本語学科 4 年 胡益頤

訪日の感想



これほど愛すべき人たちと知りあえて、忘れ難い旅行ができるとはどれほど幸運なのでしょう。うか。

日本には何度も行き来しています。政府の公式学生交流団の一員として、友達とツアーに参加して、留学もして、1 月の卒業旅行でも行ったばかりです。今回、出発する前はベッド横たわって退屈しながら、日本には自分にとって新鮮に思えることはすでに何もないので今回の訪日はつまらないだ

ろうと思っていましたが、神様からのサプライズがあったので人生は面白いことのほうが面白いですね。もしくは私が初めから間違っていたのかもしれませんが。たとえ同じ所へ行くとしても、違う人と違うときに行けば見聞きするものも感じるものも同じとは限らないのです。ましてこれほど面白い人たちとなら！

1 日目の夜はフグの宴でしたが、前に日本を訪れたとき九州で食べたいと思ったのに予約していなかったため機会を逃して残念だったのを思い出し、まさか東京でその願いが叶うとはと驚きました。食後にはあたふたと東京タワーに走って行って、7年ぶりでしたが東京タワーは依然として美しく、展望台から天の川のような夜景と果てしない夜の闇の中で友達と「詩と遠方」の話をしました。

2 日目は香林院へ座禅に行きました。入る時、三毛猫が鉄の門の後ろでしゃがんでいるのを見かけましたが、毛並みが綺麗で体つきがふくよかで、本当に良い猫でした。靴を脱いで上がると、大和尚が線香を立てて拍子木をたたき、座禅が始まりました。私は両目をつぶって座布団に座り、心の中で「おおよそ形あるものはすべて偽りだ、もろもろの形あるものの形なきものを見れば如来様が見える」と黙読していると、警策で背を打つ音が聞こえ、少しずつ精神が静まってきました。立ち上がる時、座布団の下に敷かれていた10円玉を拾うと、それを見かけた吉田さんがどうして10円玉があるのかなと尋ねてきましたが、おおかた誰かが落としたものでしょうとさほど考えもせず答えてしまいました。後で門を出るときになって小雨がちらつきだし、ふと座布団の下の10円玉は私とここに「十分有縁」(十分に縁がある)ということなのではと思いつきました。

お昼はそば打ち教室でそば打ちの楽しさを体験しました。いい汗をかいて自信たっぷりの気持ちで頂く自分の労働の成果はやはり格別の味でしたが、後で先生の作品を食べるとその気持ちが崩れ落ちてしまいました。やはりいくら努力しても長年積み上げてきた修練の魅力にはかなわないときがあるものです。

国会議事堂を見学するのは初めてでした。想像していた近代的なエリートの風格と違い、純朴な年代感が真っ向から来ました。雄壮偉大で壮観な会議ホールの他に印象深かったのは前庭にある各都道府県から送られた木です。イチヨウとさまざまなスギに人気があり、カエデの木はつつるにはげていましたが、梅は花を咲かせ小躍りしているようで、そうしたたくさんの木がむつまじく集まっている光景には、自然と温情が生まれていました。

夜は日本財団のホストによる牛しゃぶで、牛肉が鮮度よく豊かな口当たりでした。日本酒との組み合わせで本当に気持ちがよくなりました。杯を交わして日本の酒宴文化を体験しながら恋愛の理想についてしゃべり、俗人の俗世もかえって心地良いと感じました。

3 日目は早朝から正装に着替えて、寒風の中、片手は帽子を押さえ片手できつくコートを引き寄せ、並んで慌ただしく会場へ歩いて行きました。日中青年シンポジウムです。おそらく日本語を学んできた10年来で唯一の、正式でしかも正直に同い年の日本の学生と直接考えを交流する場で、本当に非常に貴重なイベントでした。違いや意見の相違があるからこそ、私たちは元いた世論の世界を出て自分の目でいったい何が発生しているのかを見るべきで、そして向かい合って交流すべきなのかもしれません。言語の誕生は実に偉大で、おかげで私たちが考える能力を持ち、自分の観点を表現して、異なる観点の間をつなぐ橋を架けることができます。私達の世代は未来の中日関係の参加者で、未来を展望することは必ずしなければいけません。恵理さんの言うように、過去を振り返らなければ未来を展望することもできません。独りぼっちで前に進める人などなく、簡単すぎる軽装では嵐の吹き荒れる運命から逃げられません。意見が食い違うからといって決して交流する権利と機会を諦めるべきではなく、反対に、異なる声が出るからこそ交流して誤解を解き、一致にいたることがより必要なのです。シンポジウム終了後のグループ行動では、日本の友達と一緒にメイド喫茶やアニメ関連のビルに行って、プリクラを写し、桜の木の下でいっしょに写真を撮りました。たくさんおしゃべりして、感慨がとて多く、収穫もたくさんありました。夕食の後は3人でホテルに近い愛宕神社の出世の階段を上りました。急に小雪がちらつきましたが、鳥居が灯りに映えて少し情緒を添えていまし

た。ホテルに帰って、床の隅に座り、ほろ酔いでのどをおさえて笑っていると、顧先生がお見えになって、青春なんだなと笑っていらっしやいました。そうです、数年を振り返ってみて口角を上げ笑っていた記憶こそ青春です。

4 日目には沖縄へ行き、ひめゆり平和祈念資料館を見学しました。記録映像を見ていると、涙が止まりませんでした。戦争はひどく残酷で、人の命と引き替えに「悪」が限りなくふくれ上がるのです。戦争のため亡くなった人々はある地方の痛ましい追憶だけではなく、ある民族のつきあう苦痛だけでもなく、人類史上の血を滴らせる傷痕です。歳月の長い流れを振り返って眺めると、あの星のたくさんあるところで、先人たちはそこにたたずんでじっと見つめています。平和への祈りは時間も空間も超えて永遠に続いていくのです。

沖縄へ行くなら海岸に行かないわけにはいきません。海水は澄んでいて明るく、細かい砂は柔らかく、海岸で笑って、跳んで、走りました。いっしょに調子の外れた歌を歌って、形の一定しないダンスを踊り、それから約束のポーズをとりました。空はどんよりしていましたが、心は真っ青な空のように晴れ渡っていました。夜には数人で集まって、ホテルの外のあずまやで風に当たりながら人狼ゲームに興じ、やりとりするうち親しくなって、雰囲気にもぎやかになりました。

5 日目にはごみ処理工場を見学し、システムチックで先進的なごみ分別処理技術に感服しました。7 年前に長野を訪れたときもごみ処理工場に行ったときも、中国にもこういう整った回収利用体系がもっとたくさんあればと思いました。今直面している環境問題は日に日に深刻化しており、多方面での総合的管理が必要で、ごみの分別処理には改善が待たれます。では私たちは何をすべきでしょうか。例えば悠野君から出された討論のテーマ、ごみの回収を有償化すべきかどうかについては、私は有償にすべきだと思います。中国の各都市の大通りにも路地にもほとんど分類ゴミ箱は設置されているのに、分類どおりにごみを捨てられる人が少ないのは、ごみの分別の意識が足りないせいだとみんなは総括しました。しかし環境保護意識のようなものはスローガンを叫んでばかりで育成することはできません。例えば数年前スーパーマーケットのレジ袋有償化が実行されたとき、最初はみんな文句を言って面倒がっていましたが、確かに有償化されてからは買い物に自分のバッグを持って行く人が多くなりました。問題の改善は意識の向上ばかりに頼っては絶対に解決できません。

「世界で一つだけの花」を歌いました。3 年後にサンゴを見に行こうと思います。6 日目は竜船の話と空手道場、そして 1 時間ちょっとで完全攻略はできなかった有馬温泉が記憶にあります。7 日目は清水坂、恋占いの石、そして銀閣寺の前のおいしい抹茶シュークリームと、3 人で大阪のたこ焼きを食べたこと、夜にみんなで歌あり踊りありの送別会をしたことが記憶にあります。8 日目には空港での名残を惜しみ、別れを惜しんで再会を約束しました。

8 日間の旅行はとても長く、多くの場所に行って、たくさんの新しい友達ができ、たくさんの新しい体験がありましたが、8 日間の旅行はまたとても短くて、まるで一瞬で終わったかのように、それぞれが速すぎた感じもします。

とても感謝する気持ちを持ってこのとても長い雑感を書きました。日本科学協会と日本財団の皆様、シンポジウムに参加してくれた日本の友達、訪日団のみんな、こんなすばらしい旅行をありがとうございました。

やはり皆さんと再会したいと思います。そのときは、また一緒に飲んで、歌も歌って、人狼で遊びましょう、友達のみんな！（原文中国語）

感想文



訪日中のある共有会で、引率の夏先生が「一期一会」に言及し、日本の茶道の理念から源を発したことばだとおっしゃったのをまだ覚えています。今このわずか8日間の訪日を振り返ると、すべての出会いと再会が大事にするだけの価値がある忘れがたい経験です。全国各地からやって来た日本語を学んでいるか日本を理解している先生や学生と知り合い、日本現地の中日友好を期待する学生や社会の各界の人々と交流しましたが、こうした「出会い」で得られたものはたくさんあります。同時に、日本で1年交換留学をしていたものの、今回の日本との「再会」にはなおたくさんの新しい発見と体験があり、日本に対する感覚と認識が改めて更新できました。

日本での1日目の夜は日本科学協会のおもてなしで高価なフグの料理を味わい、満腹になった後、第3班のリーダーとして仲間数人を連れていてホテルから東京タワーに徒歩で行って来ました。以前は年越しの時タワーの下で長い間ただ見ていただけで登りませんでした。今回は知り合ったばかりの友達と一緒に展望台に上がりました。みんなはまだ少し疎遠でしたが、一緒にタワーにいたことが友情の始まった証拠です。2日目は明け方に座禅に行きました。2回目ではありましたが、初めて座禅をしたときの気持ちとあまり変わらず、「無」など自分の座禅に対する理解がある程度深まり、また30分間の「停止」が忙しい生活になす効果を改めて認識しました。その後のそば打ち、国会議事堂の見学では、それぞれ飲食文化、民主政治などの側面から日本と中国との同じところと違うところを感じました。

東京で収穫が最も大きかったイベントと言えば、中日関係の未来の展望に関する討論会に勝るものはありません。たくさんの積極的に向上している日本の現役大学生と、未来15年内の中日両国の間についてよく関心が持たれる話題の探求を行って、「関係の改善には誤解を取り除く必要があり、誤解を取り除かなければ理解が深まらない。理解を深めるにはお互いに交流し、認識を新たにしなければならない」という共通認識が得られました。いっそう具体的に、旅行、インターネット、教育メディアなどのそれぞれの面から改善提案を出して、自身ができる行動も考えました。正にこのような討論と交流により、私たち双方が正面から直面している課題の多い中日関係の中から新しい望みを見出して、中日の友好の発展を促進するため引き続き尽力できるのだと言えるでしょう。

その他、今回の訪問では、沖縄での日程も訪日団の一人一人にきつと深い印象を残したと思います。見たところ、沖縄の万座ビーチホテルの外に広がるたおやかな海や歴史の伝統の息吹の豊かな豊見城と空手会館だけでなく、為倉浜のごみ処理回収施設、サンゴ養殖場と「ごみ回収を有償化すべきか」の討論のいずれも、普遍的で切実な現実を浮き彫りにしていました。つまり環境保護の問題です。ごみ処理回収の施設で見た解説ビデオの「混ぜればごみ、分ければ資源」という話が記憶に残っています。実際に見学する過程でも確かにごみに対する入念な分類、資源有効な利用を見ることができ、そして汚染の厳格な制御の成果に震撼しました。比べてみると、中国は今、日本より何倍も厳しい環境問題に直面していますが、環境保護に関する取り組みがとても不足しているため、この分野で日本から学ぶ価値は大きいと思います。

8日間の日本訪問は4回のフライトと10数台のバスの乗り換えで終わりました。長距離移動はどうしても疲れますが、日本科学協会と日本財団から周到な手配と配慮を頂き、今回の旅行は毎日の食事、宿泊、移動ともみんなが満足と感動を感じられるものでした。この場で努力していただいた関係者の皆様、社会团体および交流活動に参加してくれた先生方、学生のみみなに心から感謝いたします。一人一人との一期一会が今回の訪日での文化的・精神的収穫を少しずつ構成していたことはよく分かりました。再会できるご縁があればと希望しています。(原文中国語)

感想文



クイズ大会の後、この訪日イベントをととても期待していました。去年は静岡県の障碍者のマンション、滋賀県の水の故郷を見学したことがとても深く印象に残っています。自分でも 2 度の留学経験があり、休暇期間を利用して日本の世界遺産、有名な観光地もたくさん見学しましたが、日本科学協会の設計する訪日コースはいつも異なる日本を感じさせてくれます。8 日間の訪日イベントでは、一日ごとにすべて新しい期待、異なる収穫がありました。

東京

印象が最も深いのは、日本の仲間たちと参加した日中青年シンポジウムです。東京に来る前に微信(Wechat)で日本の実行委員会の仲間たちが心をこめて準備する写真を見て、心が期待でいっぱいでした。当日はグループのメンバーがおのおの自分の意見を述べ、未来の両国関係の自由な想像と期待がたくさん出ました。2031 年には、30 代に入る私たちが社会の大黒柱になるでしょう。政治の立場がどう変化しようと、民間の文化交流は不可欠だと多くのメンバーが話していました。私達はみんな相手の立場に立って考え、互いに学び合わなければなりません。私たちの求める目標は中日の一方が飛躍し一方が落ちぶれるのではなく、共に向上発展し、共に成長することです。午後には日本の大学生ボランティアと一緒に東京の流行文化の発祥地である原宿を訪れました。怪獣カフェに入るとまるで別世界で、内装からメニュー、舞台演出まで極めて特色に富んでいて、帰るのを忘れさせる楽しさでした。

沖縄

沖縄は 2 度目でしたが、やはり興奮しました。深夜に訪日団の仲間たちと砂浜でゲームをしました。談笑が絶えず、みんなの気持ちがかまた 1 歩近くなったと感じました。翌日は訪日団が沖縄国際文化祭にゲスト参加してみんなと「世界で一つだけの花」を合唱しました。私達は歌詞やメロディーをあまりよく知りませんでしたが、誠意と友好の気持ちを沖縄の皆さんに示そうと、とても心をこめて歌いました。夜には津覇君の司会する交流会に参加しました。テーマはごみを有償化する合理性です。グループには日本の大学生が 2 人いて、沖縄のごみ回収制度をととても詳しく説明してくれました。また中国人ハーフの小波津君も右翼活動への反対と中日友好への期待を語ってくれて、メンバーみんながとても感動しました。

関西

関西にはかれこれ 1 年半近く住んでいたもので、第 2 の故郷のようなところです。清水寺などはもう何度も見学していますが、実感はその都度で異なります。恋占いの石で真剣に祈る後輩達を見ると少しの羨ましさとちょっぴりの感傷を覚えました。旅の最後に関西を訪れ、訪日団の仲間たちと常に付き合う時間もだんだん少なくなりました。この 8 日間で私たちはクイズ大会の大学代表選手というだけでなく、中国友好青年の一員として、学ぶという態度で日本を感じ、日本の同い年の仲間となんいものを融通し合い、友好を伝え合いました。

長い旅路を共にしても別れの時は来ます。関西空港で先生とみんなを見送って、独り神戸に戻るバスに乗りました。1 週間の間にみんなと知り合い、たくさんの忘れ難い思い出を残しました。一期一会、友情はなくなりません。1 年近いクイズ大会の準備と 1 週間の訪問イベントを振り返ると、感動あり、驚きあり、喜びあり、成長ありでした。このともに歩いた旅路はいずれも記憶の中で一番いい時間になっています。(原文中国語)

景色より美しい人文



8 日間の訪日イベントは短かったものの、一生忘れられない幸せな思い出を残してくれました。宮内さん、吉田さんそして顧先生といった方々が心を込めて日々の旅程を手配していただき、東京、沖縄、京都、大阪などの場所を見学し、禅宗、空手道などの文化を体験して、国会議事堂を見学し、中日の学生間の交流討論会や各地の名所の見学イベントもあり、より深く日本を理解し体験することができました。

この 8 日間のあれこれを思い出して、もし一言でまとめなければならないとしたら、different every です。訪れた街や場所ごとに異なる体験や気づきがありました。日本を訪れたのは 2 度目でしたが、行程にあった場所はどれも初めてのところだったので、驚きと感動でいっぱいでした。それまで東京は賑やか、沖縄は美しい景色、京都は伝統、大阪はグルメという印象で、自ら遊覧しても基本的に一致していましたが、東京についての感銘だけは少し違います。国際的大都市の東京は想像していたほど灯りがきらめき高いビルが林立した姿ではなく、むしろ反対に多くの商業施設が 10 時を過ぎると次々に営業を停止していましたが、地下鉄駅や道路には、ブリーフケースを持ったサラリーマンが絶えず見られました。ランドマーク性のある銀座などのショッピングエリアよりも、裏通りの路地を歩く方が好きです。独特なデザインの小さなお店を見つけるのが宝探しのように、次の角を曲がると名もない神社が隠れているかもしれません。

それぞれの場所に独特なところがありましたが、特に印象の深かった点をいくつか挙げてみます。

まず挙げなければならないのは日本のトイレが本当にとても清潔なことです。たとえ公衆の場所としても自宅のように安心して利用でき、また授乳ニーズに配慮されているのが特に親切でした。日本から帰ると、中国国内のトイレに適応するにはしばらく時間がかかります。

2 つめは宣伝とデザインが重視されていることです。日本ではそれぞれの観光地にパンフレットがあり、関係する背景や文化の知識が紹介されています。清水寺の拝観券は話によると季節ごとにデザインが異なるそうで、ホテルにさえショップカードと近隣地図が備え付けてあり、方向感覚のない私はとても助かりました。他にとても印象に残っているのはスタンプラリーのある観光地が多かったことです。今回は沖縄の海辺のホテルで後輩の女子と 2 人で指示に従ってホテルをひととおり見て回り、最後に記念品をもらいました。形容できない美しさの砂浜と海を意外にも、訪ね歩く過程でたかさんの知らない場所を発見しました。

最後は私の好きな日本の最も重要な点、安全性です。今回の訪日イベントでメンバー 2 人が携帯電話をなくしましたが最後には無事に取り戻しています。中国国内では海に石を沈めたようなもので恐らく取り戻せないでしょう。この件で以前に中国へ来た日本の留学生と交流したときのことを思い出しました。彼らは中国に話が及ぶと必ずリュックサックに特に注意しなければと言っていたのですが、日本では多くの人が鞆を開けっ放しで、ファスナーがない鞆さえあるのに気づき、意外に感じました。

ちょうど「日中青年シンポジウム」で中日双方の学生代表が話していたとおり、現在両国の国民感情があまり良くない大きい原因の一つは双方の相互理解がまだ足りないことで、ニュースの情報だけに頼って理解すると全面的ではないので偏見を生じやすいものです。今回の訪日イベントではまさにこうした機会が得られ、自らの観察を通して客観的な認知を得ることができ、より深く日本を理解して、日本を感じることができました。(原文中国語)

感想文



一番印象的なのは、引率者の方々でした。日程表を作って、毎日の天気まで細かく書いてくださいました。一日はバスの中での挨拶から始まり、そしてホテルのフロントでの締め挨拶で終わります。東京でそば打ち体験、国会見学、沖縄でさんご畑見学、神戸で露天温泉を体験できたのは全部引率者の方々のお蔭様でした。また、ボランティアとして参加活動にいらした学生の方々にも感謝しており、いつか笹川杯に応募できなくなっても、私はボランティアとして交流活動などに参加したいと思います。

学生の方々との交流活動は 2 回だけでしたが、大変勉強になりました。日本側の皆さんは本当の中国を知ろうとしていて、中国を訪ねる意欲も高いです。中国でまた会うねって約束しました。

東京や沖縄に行けば日本の学生達と再会できるかもしれませんが、いい友達となった中国の学生達は皆違う場所に居て、全員で再会するのは大変難しいです。そう思えば、涙が止まりません。一期一会ということを、切なく実感しました。

賞を獲得することが一番だと考えましたが、それ以上に価値のあることがあると今回で分かりました。日本語を学んで本当によかったと、私は思います。

一番印象的なのは、引率者の方々でした。日程表を作って、毎日の天気まで細かく書いてくださいました。一日はバスの中での挨拶から始まり、そしてホテルのフロントでの締め挨拶で終わります。東京でそば打ち体験、国会見学、沖縄でさんご畑見学、神戸で露天温泉を体験できたのは全部引率者の方々のお蔭様でした。また、ボランティアとして参加活動にいらした学生の方々にも感謝しており、いつか笹川杯に応募できなくなっても、私はボランティアとして交流活動などに参加したいと思います。

学生の方々との交流活動は 2 回だけでしたが、大変勉強になりました。日本側の皆さんは本当の中国を知ろうとしていて、中国を訪ねる意欲も高いです。中国でまた会うねって約束しました。

東京や沖縄に行けば日本の学生達と再会できるかもしれませんが、いい友達となった中国の学生達は皆違う場所に居て、全員で再会するのは大変難しいです。そう思えば、涙が止まりません。一期一会ということを、切なく実感しました。

賞を獲得することが一番だと考えましたが、それ以上に価値のあることがあると今回で分かりました。日本語を学んで本当によかったと、私は思います。(原文日本語)

訪日の感想



日本語多読の教科書の中で日本が海外市場に向けて日本観光を宣伝する標語、“Japan.Endless Discovery.”を見たことがあります。日本は何度も訪れる価値があり、観光客を絶えず感動させる国だという意味です。今回の 8 日間の日本の旅をした後で、私はこの宣伝の標語に嘘はないと感じています。初めての日本ではありませんでしたが、今回の日本の旅の過程で、目の当たりにしたこと、体験したこといろいろがすべて新鮮さにあふれ、心を直撃したように感じられました。目新しい体験だけではなく、努力して私達のために体験の機会を作ってくださった日本科学協会、ボランティアとして協力してくれた日本の大学生、それぞれの観光地で事細かに説明してくれた職員の皆さんにもとても感動しました。

東京

私は全団で最も低学年だったので、日本へ行く前は日本語での交流の問題をして眠れない日々が続きました。しかし東京に着くと、熱烈な雰囲気での歓迎会 1 度ですべての不安がなくなりました。フグを味わって、良い酒を痛飲し、ほろ酔いの時にみんなで大先輩を囲み高らかに 1 曲歌って、笑って心ゆくまで思う存分楽しみました。翌日、座禅をするとき「頑張って動かないこと」以外には何も考えませんでした。大和尚に叩いていただくと肩が少し緩みましたが、さほど感想はありません。まさか悟りを開くには時間が足りなかったのでしょうか(笑)。その後のそば打ちはさらに貴重な機会でした。普通の観光客には体験しにくいことのはずです。自分で打ったそばを食べる喜び、先生の品評を待つときの緊張のいずれも、思い出すと笑いをこらえきれません。

東京での最後の日は、日程中で最も重要な中日関係の討論会でした。討論の過程では、グループの日本の大学生がみんなとても根気良く、私に聞き取れるようにできるだけはっきり話をしてくれて、体を前に乗り出して私の発言に耳を傾けてくれました。彼らが友好的だったため、討論する雰囲気がだんだん熱烈になり、私も緊張しなくなり、表現も次第にはっきりできました。討論は私がほとんど知らない話で、得られたものはたくさんありました。討論会の後、慶応大学の桜井さん、諏訪さんの案内で慶応大学、神保町を遊覧しました。私は慶応大学のキャンパスに深く引きつけられました。キャンパスの景色をパソコンのデスクトップに設定して、その時の短いながらもすばらしかった時間をいつでも思い出せるように、彼女たちとまた会えるように自分の努力を促すようにしています。

沖縄

沖縄に着くと、家に帰ったようでした。なじみのある気候、植生、海の景色すべてが沖縄に対してひとしお親しみを感じさせるものでした。沖縄の旅の中で最も震撼したのは、ひめゆり平和祈念資料館を見学したときのガイド絹さんの涙です。元ひめゆり学徒退院が後述する歴史映像を見終わって重苦しい気持ちになっていましたが、絹さんが感想を言うときに涙にむせんで涙を流してしたことにとっても驚きました。決して経験者ではない彼女が、スクリーンを通して経験者の恐れと絶望を感じ、気持ちと同じくした結果、涙を流したのです。戦争の痛み、反戦の理念はこのように一つの映像で国も年代も超えて伝わるのです。間もなく経験者が消えてしまうたくさんの痛ましい記憶を一体どのように残し、整理して、展示すればもっと多くの人に共感され、将来また戦争という痛ましい過ちを犯さないようにできるのか、思わず考えてしまいました。

京都、大阪

京都は古都として、至る所でその古さ、優雅を感じさせてくれました。清水寺、銀閣寺といった観光地の美しさは言い表せないほどで、来世そこにそびえ立つ松になれたらと願ってしまいます。最も深く記憶に残っているのは、清水寺の近くにある地主神社です。恋占いの石をなでながら黙々と祈り、びくびくしながら目を閉じて前を向き、最後にもう一つの石の中央を叩いたその一瞬、心の中はまるで夏日の花火大会のようでした。引いたおみくじをゆっくり開いて「大吉」を目にしたとき、思わず大声で笑ってしまいました。おみくじに書かれた幸福が実現できるとは限りませんが、そのときの吉兆はとて喜ばませんか？神社を離れるときの足取りは雲の上を歩くかのように飄々としていました(笑)。

初めて「一期一会」という言葉を見たとき、一生で一度しか出会わない人ひどく多いので、一人一人にベストを尽くせるはずがないと思いつくできませんでした。しかしこの 8 日の間に会った、かわいいガイドの袁さん、王社長、親切な絹さん、中国語の一流なガイドの下平さんにも、少しも世代間のギャップを感じさせない顧先生、やさしい吉田さん、静かで根気良い宮内さん、はたまた日本側、団の仲間みんなにも、「後ではなかなか会えない」感傷と恐れを感じ、毎分毎秒をしっかりとつかまえてもっと多くの幸せな思い出を作りたいと思えました。この旅行の後で、私はやっと「一期一会」のどうしようもない感傷を体感して、出会ったときに思いきり腹の底を打ち明ける必要を悟れたのです。

(原文中国語)

吉林大学珠海学院日本語学科 4 年 陳佩芝



この 8 日間、楽しい時間は本当にあっという間に過ぎました。私はインターンシップで名古屋から東京へ行き、中国から来た皆さんと合流しました。東京でふぐもしゃぶしゃぶも食べて、すごく美味しかったです。座禅はきつかったです、自分のことをちゃんと考える機会ではないでしょうか。「死に方は選べないですが、行き方は選べる」という考えは心に響きました。討論会の皆さんはすごく盛り上がり、楽しかったです。そして、沖縄でひめゆり平和祈念資料館で当時の戦争で看護をしていた学生と先生の資料を見て、悲しくてたまらないです。平和の大切さに気づきました。このようなことを二度とならないように祈ってます。空手は沖縄で発祥されて、沖縄の空手マスターから日本全国、そして全世界へ広げています。すごく感心しています。新しくできた空手会館を開館前に見学させていただき、誠にありがとうございます。後は有馬温泉に行き、温泉に入るのは初めてではないですけど、露天風呂は初めてです。やはり日本の温泉は最高です。すごく癒されます。歴史感の溢れる京都是私にとって住みやすいところだと思います。所々も昔の日本の風習は目の前に出されたんです。この 8 日間、私たちは各地から来て、学校も違い、ほぼほぼ初対面ですけど、皆さんと出会えて良かったと思います。日本、最高! (原文日本語)

吉林大学珠海学院日本語学科 4 年 龐雅均

日本滞在の感想



日本語を専攻する学生ではありますが、学びが浅いうえ日本を訪れたのは初めてなので、日本語では胸の内の震撼、感動、目新しさを表現しきれないため中国語でこの旅行の収穫を書きますがお許しください。

最初に訪れたのは世界でも有名な大都会、東京です。東京は新しい都市の概念を解釈したと言わなければなりません。以前の中国では、大都市を観光すると、往々にして都市の景観はどこでも同じだと感じられました。高いビルが林立し、車の往来が盛んで、人出が多いほど都市の賑わいの象徴となっていました。しかし東京には高層ビルが決して多くはありません。解説してくれた袁先生によると東京は地震がわりに多く、都市が建設された当時は建物の耐震技術が今ほど進んでいなかったため、東京のビルは総じて高くないのだそうです。今は技術が次第に向上してきたので東京にも高層ビルが現れ始めています。しかしこうした東京のほうがかえって賑やかな都市を実感できます。こうした感銘は特に夜 11 時過ぎ東京の街頭をぶらぶらして東京スカイツリーに上ったとき最も深く覚えました。夜の東京は昼間に負けないにぎやかさで、デパート、お店、居酒屋、駅がライトアップされ、街は人の往来が盛んで、動きある輝きにあふれていました。東京タワーに上ったとき、案内してくれた日本の学生たちは、夜にここから東京を見下ろせばさらに無敵だとみんな言っていました。しかし、昼間のタワー観光でも十分に震撼しました。高いところの空気が清新で、視野がはっきりしていて、家屋がずらりと並び、無限に発展していくのが見え、ほとんど果てが見えないのです。広州タワーの後でスカイツリーに登ると恐らく感じ方も違うでしょう。他はたくさんの本で紹介されているように、東京の大通りは整然としていて清潔で、道は細く狭く複雑で、車はコンパクトでした。日本にはコンビニが多いと言いますが、交通信号のほうはコンビニよりさらに多いと感じました。人がどっと押し寄せて湧いても秩序があり、たとえ車が通行するときでも、横断歩道に通行する人がまだいれば、車が必ず止まって道を譲ります。身に余る待遇を受けて驚いたので、歩いていくときはわざわざお辞儀をし

て感謝を表しました。さすがに中国国内で道路を安全に渡るには自分が車に道を譲る方がましです。

東京での 2 つめの大きな出来事は日本の大学生との交流でした。討論の成果は実り多く、たくさんの方のメディアも関心を寄せて報道していましたが、それについては詳しく述べません。深く感動したのは、中国の大学生が日本の大学生とコミュニケーションをとり交流した過程です。みんなは昼間の討論会では慎み深く礼儀正しくしていましたが、夜に会食したときは、早く会えばよかったと思うほど勢いよく話し、全体に氷の融けたような雰囲気でした。今回の交流のためにホームグラウンドである日本の大学生ボランティアたちは心をこめて準備をしてくれて、彼らの誠意と友好的な態度は至る所に現れていました。身近な日本に留学した同級生によると、日本人は欧米を崇拝しているので、日本のキャンパスでも欧米の留学生はいつも人気だとの話でした。そうした話を聞いて日本の若者に偏見を持ってしまっていたようです。しかし、1 日だけの氷を融かす旅でもみんなの親切さに感動し、また深い友情を結べました。散会後にみんなは名残を惜しみ、時間があつたら自分の国に遊びに来てほしいと声を掛け合いました。いつかまた会えるでしょうか。

次に訪れたのは日本の有名な観光地、沖縄です。初めにひめゆり平和祈念資料館を見学しました。残酷な歴史と戦争の中で亡くなっていく命の悲痛さのため、旅程は初めからやや薄暗く、みんなの気持ちも重苦しいものでした。最後に記念館を離れる時、私は同行したお姉さんと一緒に、世界平和を望む小さい願いを書いて投函しました。ですが、旅程で最も印象深いのはサンゴの家を見学した時のことです。水槽にいる各種のサンゴの解説を聞いていると、彼らが非常にここのサンゴの品種、習慣を理解しているのが伝わってきて、サンゴや環境そして地球に対する愛護の心まで分かりました。彼らはサンゴの海洋そして地球に対する保護の意味をもっと多くの人に知ってほしいともっと多くの人に気づいて行動してほしい、環境を守る仲間になってほしいと望んでいるのです。たとえばサンゴの植え付けを教えてくれたお姉さんのサンゴに対する一挙一動は、まゆをひそめたり、笑ったりして自分の子供を扱っているかのようでした。彼女の水に長く浸かりすぎて白くなった手や指はよく覚えています。そして沖縄の夏の厳しい日差しで焼けた腕と丸顔のシミ、そして澄んだ目で微笑みながら頼むような語気で話したこと。「皆さんが帰国した後、周りの人々にサンゴのよいところを宣伝して、誰もが自然を愛し環境を守れるようにしてほしいと思います」。沖縄の人々がこうして自分の郷里と海洋を愛護しているからこそ沖縄の空気がきれいで、海の水も澄みきっているのかなと思いました。

最後に訪れたのは関西地区です。日本語を学んで、日本の文化に触れてからというもの、私は非常に関西が好きです。古都の京都、奈良があるからというだけでなく、関西弁にも夢中になっています。話せば恥ずかしいのですが、日本に行く前に温泉に入ったことがなかったので、人生の温泉初体験は有馬温泉に捧げ、本場の日本温泉文化を感じてきました。ただひとつ残念だったのは、京都見学が半日しかなく急ぎ足で、清水寺や金閣寺の歴史の風情を細かく味わうことができなかったことです。しかしそうしてざっと観光しただけでも、京都とその古い町並みは気に入りました。もし次の機会があつたら、1 日か 2 日かけて観光地と街をじっくり楽しみたいと本当に思います。千百年前から残る石畳を踏みしめて千年の川辺を歩き、静謐で高尚な寺院を参拝して、老舗の秘伝のお菓子を味わい、十代続く匠の工芸品を鑑賞して、京都の日本の伝統文化に対する保護と伝承に驚嘆して感銘を受けたいのです。大阪での自由時間には数人の仲間と豊臣秀吉の住まいだったという大阪城へ行きました。この歴史的名城は政府の修復のもとで、昔の勇姿が再現されていましたが、立ち入ってみると中は現代的な博物館に変わっており、関係する歴史の文化財をたくさん展示してはいるものの、戦国の歴史に対する理解を助けるハイテク製品があふれていました。私が個人的に石頭だからかもしれませんが、観光客に迎えるために改造された大阪城に古建築の魅力はなくなっていると思います。古い城壁と砲台の周囲を歩いてやっと大阪城の歴史と文化が感じられました。しかし京都は違って、草木の一本一本にまで古びた空気が漂い、千百年來の変遷を物語っているかのようでした。いつかきっと、また必ず京都と奈良に来なければなりません。

もうひとつ忘れ難いのは私たち訪日団のメンバーの友情です。実を言うと、みんなと打ち解けられ

るのか最初は心配でした。さすがにみんなの学校、地域、性格が違うので、ものの見方にとても大きい相違もありますが、たった1日でその問題は楽しい会食に打ち消されました。ここで日本財団の中村常務に感謝したいと思います。常務が集会の雰囲気は何度も盛り上げて下さったおかげで、みんながあれほど早く親しくなれたのだと思います。この旅行では初めて人狼ゲームというものに触れました。日本での7泊8日はほとんど毎晩3時間ほどしか寝ていません。初めての日本がとても目新しく、日本文化を体験することに少しでも多くの時間を費やしたかったのと、みんなと一緒にしゃべりして遊ぶ時間をつくりたかったからです。日本はまた行くこともできますが、こんな愛すべき同行の仲間たちはこの旅が終わったらいつ集まれるのでしょうか。

最後にやはり顧先生、宮内さん、吉田さんほか日本科学協会と日本財団のスタッフの皆様特に感謝したいと思います。まさに皆様のおかげで、今回の見学や交流が順調に楽しく進んだのです。東京で中日青年交流会のあった日の夜、小ホールでビュッフェの夕食を摂っていたとき、戸口に小さいイスが2脚あったのを覚えています。賑わう大テーブルを離れたスタッフの方々が、場内で盛り上がる私たちを見ながら静かに食べているのを見ると見守ってくれるような感じがして暖かいものを覚え感動しました。本当にとってもみんなに感謝しています。小さいことを言うと私はもともと外出を好まないオタク女なのですが、親切で周到な手配のおかげで道中たくさんのことを学ぶことができ、旅行が好きになりました。大きいことを言うと、日本財団と日本科学協会が積極的に中日の民間交流に対処してくださり、私たち両国の青年が互いにコミュニケーションし理解しあう機会をくださったことに感謝しております。

以上が私の感想です。話し出すと止まらない感じがしますが、どれも本当の気持ちと体験です。先生方から見て冗長すぎるかうるさすぎるときは、かいつまんで載せていただければと思います。このイベントの準備から今に至るまで本当にご面倒をおかけして申し訳ありません。関心を寄せ面倒を見てくださった先生方、そして皆さん、ありがとうございました。(原文中国語)

吉林大学珠海学院日本語学科4年 吳 浩煒

訪日感想



三月一日、大阪の朝はまだ寒かったです。鞆一杯のお土産と抱えていた私たちは帰国しました。関西空港へ向かうバスの中に、みんな続々と自分の感想を口にしました。話を聞きながら、この8日間の勉強になったのと、私は思いに落ちました。

現代と伝統の共存

初めて日本に来て、東京での街の風景に驚きました。それは活気が溢れている、物欲にまみれた国際的な大都会に相応しくない光景です。高層ビル、鉄筋コンクリート造りの中に和やかな神社も静まりかえています。日本に来る前に現代社会と伝統的な文化がこのような形で一体化し、共存するとは思わなかったです。イメージの大都会とずれがあって、正直にショックでした。過去から築いてきた文化を継承し、そしてどんどん未来を創造していく力に感動しました。発展する一方、文化が次々と消えてしまう中国からやってきた私が日本で新しい光景を見て、ひたすら先に進む一方、失うことも多く、発展は文化に犠牲を払うことを前提とするべきではないと痛感しました。いつか自分の国も新しいものはできたら、古いものも保っていく国になると心から願い、そしてそのために些細な力を捧げたいと決心しました。

極めるサービスの魂

あれは沖縄のホテルに泊まったことでした。夜12時半、ホテル廊下に私は洗濯物が詰まった籠を

持ち、急いでコインランドリーへ向かいました。しまった、小銭を忘れたなど、急に気付いて、足を止めました。慌てて周りを見回すと、あれもこれも閉店でした。目の前に光っているのはただ営業停止のはずの浴場で、仕方なく、誰かに聞くだけ聞いてみようかと、考えながら浴場のほうに歩いてきました。幸いなことに、一人まだ後片付けのスタッフがいました。両替してくれないかな、と願いを聞かせたら、これでいかがでしょうかと、彼女は笑顔で両替の小銭をテーブルの上に丁寧に出しました。「助った、助かりました！ありがとうございます！」と両替した小銭を握り、嬉しすぎて思わずコインランドリーのほうに駆け抜けました。せめて手を差し伸べてくれた彼女に「お休みなさい」ぐらいと言ったら良かったのにと、今でも悔やんでいます。あの夜、些細な出来事に感動させられました。相手の気持ちになって十分に考えてくれるのはやはりサービスの魂を極める日本人しかないでしょう。いつでも素敵なサービスを、と彼女のサービスを徹底する心に感心し、あの夜、外雨は降っていたが、晴れていた夜を過ごしました。

混ざればゴミ、分ければ資源

この言葉は私の思い付いたことではなく、沖縄で倉浜衛生施設の見学からもらった一番に印象に残った一言です。ゴミ分別が苦手な中国人の私が日々軽くゴミを捨てて、収集との概念はあまり意識していなく、わざわざゴミを分ける手間をかけるより、楽しようと思っていました。たが、捨てる人の楽が、全員の楽とは言えないでしょう。楽の裏に人一倍、さらに二倍、三倍の苦勞をしている人はいます。そうすると、誰にも目の前のゴミを資源と思わなく、捨てる人はいらぬものだと思っていて、分ける人は大変苦勞させるものだと恨んでいます。さらに、混ざっているゴミはいろいろな匂いも混ざって、常に不快な匂いが漂ってきました。より合理的なシステムを作り、ゴミは廃品ではなくて、一種の資源として扱い、いらぬものを宝にし、あるいは電力とし、あるいはトイレペーパーやペットボトルとして、それぞれの使い道を持たせるのが素晴らしい発想だと思われます。見学した後、感動している同時、思わず自分の国を思い出しました。中国は今そういう収集システムがまだ発達していないが、隣国である日本の経験を生かせば、経済発展と共に環境に優しいのを意識し、きっと私の国も循環型社会になると信じています。

感謝

心を込めて、観光プランを立てて、原宿を案内してくれた東京現地の皆さん、及び存分に沖縄の情熱を伝えてくれた沖縄現地の皆さん、楽しかった思いをさせてくれて、本当にありがとうございます。そして、親切にいろいろ教えてくれて、大変お世話になった袁さん、高さん及び下平さん、現地ガイドの三人に、感謝しています。最後、日本科学協会にも心からお礼を申し上げたいと思います。日本を旅する夢を叶え、中日若者交流を深める場を提供してくれて、日本の若者の素直な本音を耳にすることと同行の仲間のもう一つ可愛い顔を知ることができて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。このような中日両国の若者にもっと知り合う機会を作り、より多くの学生が中日交流に参加できて、自分自身の視野を広められる、有意義なイベントはいつでも行われるように願っています。一生の宝物であり、今回の旅。(原文日本語)

湖北大学日本語学科4年 田静



今度訪日の八日間を終え、様々な感動や勇気をもらいました。前も東京に一年間住んでいて、日中関係について色々考えていましたが、今回の経験を通して、自分の考えを確かめ、更に新しい発想を得ました。特に、尾形理事長の発表を拝聴し、日中友好の未来は私達若者にあるということにすごく共感しました。日本人学生と交流する時、みんなオープンマインドでした。特にAちゃんとの会話はすごく印象でした。Aちゃんは恋愛相談に乗らせてくれました。短い出会いでしたが、彼女

は悩みを正直に話してくれました。本当に感動でした。彼女を傷つくかもしれない意見を慎重に言いました。本当は少し後悔しましたが、これから A ちゃんも元気になればなと願います。

四日目は沖縄に行きました。前は旅行に行ったことがあります、今度は天気もまだ寒くて新鮮でした。県民と話し合い、「旅行に来る時、どんな不便なところがありましたか。」と聞かれました。交通や設備などについて提案してみました。すごく有意義で楽しかったです。そして、サンゴ畑で、ラッキーでサンゴを作りました。弱い子なので、ちゃんと海で生きていけるかなと少し心配しています。

最後の三日間は関西で楽しんでいました。関西ではエスカレーターに乗るとき、関東と違って右に立つこと前も聞きましたが、実際にやってみるとすごく不自然でした。体全身が反抗しているような感じでした。何とかして統一できないのかと思いました。関西弁も実際にはじめて聞きました。めちゃくちゃカワイイと思いました。もう一度言葉の魅力を感じました。中国の方言も多様多趣であるので、ぜひ日本人のみなさんに聞いてほしいと思っています。やはり日本は何度訪ねてもあきらめられないと言えるほど魅力的な国だと思います。(原文日本語)

湖北大学日本語学科 4 年 馮悦

感想文



いよいよ近づいてきている春に、東京の桜がもういくつか咲いていた。この七日間の旅はまさに人生の宝に違いない。日本は初めてではないが、このように中国の各大学の優秀な学生達と一緒に旅をするのは初めて、このように日本の素晴らしい学生達と中日将来像を描くのは初めて、このように七日間で日本の各地の名所旧跡を拝見するのは初めてなのだ。このように多くな初めてを経験するとは思わなかった。一番印象的なのは座禅だ。本当に足まで歩けないほど痺れちゃった。絶対一生忘れられない。でも、このように身を磨いて、精神を作る日本文化の素晴らしさがしみじみ感じられた。そして、沖縄県の素敵なりサイクルシステムに感心した。沖縄県民の人達はゴミ処理の問題だけでなく、珊瑚の減少などの環境問題について一生懸命努力している姿に感動している。だからこそ、沖縄の景色は世界で一番なのだ。私達一人一人、自分の後代がきれいな世界で生きていくために、小さい力でも、日々の積み重ねをすべきだと思うようになった。七日間の旅は本当に最高だった。もう帰国したが、深い絆が残ったような気がする。討論会で素直にお互いの意見を話し合い、皆素晴らしいと思う。東京で案内してくれた実行委員会の皆さんにありがたい気持ちでいっぱいです。わざわざウィチャットまで交換してくれて、ありがとうございます。そして、沖縄で皆さんとゴミ処理についての交流もとても楽しかった。晚餐会の後、歌を歌ってくれて、三味線を演奏してくれて、かなりテンションが上がった。一生忘れない思い出になった。悠野さんと陸さん及びたくさんボランティアのおかげで、交流会が円満に面白く行われた。最後、いつも行き届きの配慮をしてくれて、この全てを支えてくれた日本科学協会がないと、この旅は成功に成り立てないのだ。心から感謝しています。これから、この絆を長く遠く続けるために、私は選手やボランティア、または観戦者として、いろんな形で笹川杯を応援しようとしている。これからも頑張ります！(原文日本語)

訪日感想



日本に行ったのが、今回は初めてではないが、体験は全部新しいものだ。そのため、今回の日本への見学は、私にとって「日本を再発見する旅」とも言えるのであろう。日本科学協会が作ってくれたスケジュールは非常に豊富なので、様々な面白い体験ができた。この度のそれぞれの体験と観光と交流は、私に日本への理解を深めるチャンスくれた。

訪日中最も印象に残ったのは、日本人学生との交流会だった。東京での三日目に、我々訪日団の学生たちは、日本財団ビルで、日本人大学生たちと一緒に中日関係の将来像について、熱烈な討論会を行った。この討論会によって、中日友好に達する道はまだ長いことや、我々若い世代は中日友好の責任を担うべきであることや、これから双方の努力は必要であることなどが、もう一度私の心の中で確認された。

沖縄では、そのような交流会もあったが、新たな話題を討論した。交流会より、むしろ親睦会と言われたら適切である。沖縄の学生たちと両国の環境問題について意見を交換し、たくさん話し、食事をしながら、一緒に歌を歌った。この二つの交流会で、日本と日本人、それから日本文化への理解を深めた。両国の友好のために、両国国民は自分の国と相手の国を共に深く知り、努力しなければならないのである。

今回の旅で、たくさんの日本人と中国人学生の友達ができ、彼らは私にとって一生の友達だ。その友情はきっといつか、両国の国家の友情になると私は深く信じている。(原文日本語)

蘇州大学日本語学部 4年 姜英澤



楽しい時間の経つのはいつも早いです、八日間は矢の如く過ぎました。この八日間、私は初めて日本という国の景色を満喫し、この国の文化を体験しました。さらに多くの日本人たちと交流し、日本への理解がもっと深くなりました。

2月22日東京に着き、一番印象深いのは街が驚くほど綺麗です。ゴミ一つもなく、ゴミ箱もとても少ないです。普段日本は綺麗な国だったということを聞いたことがありましたが、それほど綺麗なものは思いがけなくて、すごく感心しました。もう一つは伝統文化の保護である。東京のような大都会ではそんなに多くのお寺や神社などが数えきれない高層ビルの中に隠しているのはほかの国ではあるはずがないことだと思います。これは日本ならではの魅力かも知れません。浅草寺の近くに東京スカイツリーが立っていて、伝統文化と現代文明は一緒に生きて輝くのも日本の魅力だと思います。そのほか、私たちは「中日の未来」をテーマとして、日本の大学生たちと交流しました。中日の未来という問題への理解を深めることに大きな役に立つと思います。日本の大学生たちと遊んだのはとても楽しかったです、またみんなと一緒に遊びたいと思ってならないです。

東京と別れてから沖縄へ行ってすごくきれいな海を見ました。生まれてはじめてそんなにきれいな海を見ました。また、ひめゆり平和祈念館で、戦争の恐ろしさをしみじみ感じました。200名以上の若い女の子は戦争で命を落として、これ以上惨めなことはないと思って、この世に再び戦争が起こらないようにずっと心より祈っております。

それから大阪と京都へ行きました。京都で清水寺と銀閣寺を観光しました。この二つのお寺は世界でも有名な観光地だといっても過言ではないと思います。特に銀閣寺ではじめて「枯山水」という庭園づくりの方法を見て、禅味に富んだお寺だと思います。これをきっかけに、日本の宗教や禅の文化などを一層深く理解しました。また、大阪の梅田の紀伊国屋書店でたくさんの人が集まって真面目

に本を読んでいだ姿を見ると、何となく感動しました。毎日忙しい生活を送っている日本人は時間を作って本を読むのを見て、我々中国人もそうすべきだと思います。

また多くの楽しいことがあります、各大学から来た優秀な学生と出会ったこと、日本人大学生たちとカラオケに行ったこと、仲間たちと一緒に深夜までゲームをしたこと、このすべては忘れない美しい思い出になりました。八日間の訪日が終わりましたが、この美しい思い出は一生のうちに頭の中に残っています。またみんなと会って、楽しく遊ぶことに楽しんでいます。

最後に、日本科学協会の吉田さんと宮内さんと顧先生、武漢大学の李先生と夏先生、またガイドさん三人にお礼を申し上げたいと思います。この八日間、詳しい日程を作ってください、一緒にいてください、何かあったらすぐお手伝いくださることに、誠にありがとうございました。(原文日本語)

福建師範大学大学院修士課程1年 盧鳴

訪日感想文



2017年2月22日から、わたしは笹川杯訪日団のみなさんと一緒に、一週間ほど日本へ行ってました。日本は初めてなので、何でもかんでも興味いっぱい、思う存分に楽しむことができました。次に、今回の訪日感想を少し言わせてもらいます。

まず、何と言っても日本科学協会のみなさまの行き届いた配慮にお礼を申し上げたいと思います。わたしたちのために、非常に充実した日程を考えてくれたからこそ、こうやってもったいないことなく楽しく訪日を終えることができたのです。特に印象に残ったのは、日程表に書いてある「天気予報」のことです。それがあってこそ、どんな服を着ればいいのかというような困ったことはなくて済んだのです。そして、いつもそばにいて、何かあったらすぐ助けてくれたのは、本当に心強かったです！本当にありがとうございました！お疲れ様でした！

次に、今回の旅を振り返ってみると、ほんのわずか一週間でしたが、一年分もの体験ができたかなというような感じがしました。フグ、座禅、そば打ちなどなど、数えきれない良い思い出でいっぱいです。日本人としても経験したことのないようなこともやらせてもらって、更にありがたいなあと思いました。中でも、24日に開かれた交流発表会が印象的でした。日本の学生さんが数多くボランティアでやってきて、2031年に至るまでの中日関係をみんなでディスカッションを行っていました。会場がすごく盛り上がり、最後の発表会でみなさんの意見や考えを聞いて、本当に勉強になりました。自分もみんなの前に立って、うちのグループの意見をまとめて発表しました。緊張はしていましたが、日本で発表するのはめったに無いチャンスなので、とても楽しかったです。その日の午後、日本の学生さんがわたしたちの希望にそっていろいろなところに連れていってくれました。そこでまたいっぱい経験でき、交流でき、幸せでした！

周知のように、沖縄は古くから中国の福建省と深いつながりを持つところです。わたしは福建省出身で、大学時代に沖縄に行ってきたクラスメートも何人かいます。というわけで、自分もいつか沖縄に行ってみたいなという思いもありました。それは今回、現実になりました。海がすごくきれいで、さすが沖縄だなあと思います。他にも、さんご畑や沖縄フェスタなど、いろいろ体験しました。ゴミ収集を有料化すべきかどうかというテーマをめぐって、また交流発表会があって、わたしたちは現地の学生さんと楽しく交流できたのです。ただ沖縄の旅で一つ悔しいことが心に残っています。沖縄は福建省と深く関わっているところで、先祖が福建省から渡来してきた者も少なくはないです。今回そういった方と何人か出会いはしたが、本来ならもっとしゃべってその場を盛り上げていたはずなのに、自分の人見知りのせいで、面会は一言に留まって、そして写真撮影だけで終わってしまったのです。福建省を代表するたった一人のわたしが果たすべきだった大事な役目は、とうてい果たせなかったと今振り

返ってみたら、しみじみと感ずます。とても恥ずかしいです。できれば、将来友好交流に関する仕事に就いて、福建と沖縄ないし中国と日本のつながりを更に深めていきたいと思ひます。

以上、わたしの感想でした。今回の旅は本当に楽しくて、よかつたと思ひます。(原文日本語)

吉林華橋外国語学院 日本語学部 4年 鐘潔玲



日本科学協会及び武漢大学の先生方々のおかげで、楽しい 8 日間を過ごすことができました。ここで、もう一度御礼を申し上げます。

この 8 日間、中国人も日本人も、優秀で、面白い人達と出会いました。3 人でトイレ教を作り、変なポーズで写真を大量に撮りました。深夜、ホテル近くの愛宕山神社へ行きました。その夜は、雪が降りました。神社の黄色いあかりの下に舞い降り、とても綺麗でした。出世の石段が急で、登る時は疲れただけですが、降りる時は足が震え、私たち 3 人がお互いを支えて、のろのろと降りました。「人狼殺」というゲームもほぼ毎晩やっていました。楽しかつたです。素晴らしい思い出になりました。笹川杯実行委員会の皆さんが、討論会の準備で、色々資料を調べてくださり、自由コースの企画も実施もしてくださいました。とても楽しかつたです。本当にありがとうございました。

討論会の前に、深刻な討論に至るかもしれないと心配しましたが、実際に会って、日本の学生さんも私たちと同じく、日中関係を前向きに考えていることが分かり、ほっとしました。素敵な討論会でした。私たちのように考えている日中の若者達が増えていけば、日中関係は必ず私たちが思っている将来像になれると思ひます。

そして、沖縄で、倉浜衛生施設組合のエコトピア池原を見学しました。回収したゴミや服をトイレトペーパーなどにリサイクルすることに感心しました。午後の討論会で、日本人の学生さんに中国の深センや香港などで、ゴミの回収とリサイクル技術が進んでいると聞きました。自分の国の状況に無関心だということを非常に恥ずかしく、反省しています。そして、進行役を務めた悠野君、とても 18 歳とは思えないほどしっかりとしていました。沖縄の海は本当に綺麗です。そして、幸運にも珊瑚畑で赤ちゃんのサンゴを植えることができました。これから、沖縄と言つたら、海ではなく、サンゴとシークァーサーです。

それから、京都と大阪にも行きました。残念ながら、今の季節は、桜の時期ではなく、紅葉の季節でもないので、絵のような景色は見られませんでした。皆さんと一緒に、素敵な思い出になりました。

最後、日本人が気になる「列に並ばない現象」について書きたいと思ひます。帰国後、汽車で家に帰るので、上海駅に行きました。改札時刻になると、一部の座っている人達とどこかで立っていた人達が一斉に改札口の近くに寄りました。日本へ出発直前のことを思い出しました。ある日本人の女性が小さな笑い声で友達に「ほら、中国人のように」といいながら、列に割り込んだのです。その場にいる大勢の中国人の中に、誰一人そのような人はいなかつたのに、なぜあの人はあんなことができるのでしょうか。中国人を色眼鏡で見る外国人も少なくないなと思ひました。確かに、中国では、この現象は少なくないのですが、私が言いたいのは、その一部の人達が、すべての中国人を代表するわけではないことです。列に割り込む人達ですが、彼らは、してはいけないと知っていながら割り込んだのではなく、列に割り込むこと自体を悪いと意識していないかもしれません。それでも、彼らは、いい父、いい母、いい夫、いい妻、いい友人といった面があるかもしれません。彼らの大部分は、家計のために、自分の子供、つまり、次の世代をよくするために、田舎から都市に行つて、頑張っています。「地味にすごい 校閥ガール」を見てわかりました。彼らのおかげで、私たちが快適な生活を過ごすことができるのです。ですので、中国、中国人を見る時、悪いことばかり見るのではなく、私たち、

より良い教育を受けた若い世代を見て欲しいです。なぜなら、東京での討論会で皆さんがまとめたポイントのように、10年15年先は、この時代の責任を負うのは私たち、今の若い世代だからです。
(原文日本語)

上海外国語大学日本文化経済学院大学院 2年 沈璐璐

感想文



上海外国語大学大学院2年の沈璐璐です。日本の中世文化が専攻です。
笹川杯日本知識クイズ大会個人戦3等賞(第7位)を受賞して今回の訪日団に参加できることになり、たくさんの優秀な友達と知り合い、以前の日本旅行では得られなかった本場の風情を体験して来ました。
今回の旅行で最も印象深いのは東京の香林院(香林禅院)で大師の指導を受けながら体験した座禅です。このスケジュールに組み込まれていなかったら大多数の人はこうした本場の体験をする機会が永遠になかったでしょう。雨のちらつく明け方、ひっそりと静かな部屋の中で30分、座り込んで瞑想し、合掌して大師に警策で打っていただき、瞑想の後に禅宗の奥義を伺うと、まさに『座禅儀』(道元、1233)で言う「静かなところに敷物を敷いて、着衣を緩め、威儀を整わせてから結跏趺坐する」という内容のとおりです。大師の「座禅は『正』。身体を一度止めて見えるんだ。動くと見えないんだよ」という言葉はなお記憶に新しく、まさに座禅の修定で、修定により知を探り出す教えです。
仏教/禅宗は日本と中国であれこれ似ているもののひとつで、中日両国の若い人があまり理解していないものでもあります。古代は中国の文化が大量に日本へ流入したと言うなら、日本の文化が一方的に中国へ輸出されている今、これらの類似点はより私たち若者が理解しなければならないものです。
東京で深く印象に残った出来事があります。ある日の夜中、2人の学生が夜ホテル近くの愛宕神社へ行って戻り、ホテルの廊下でよもやま話していたとき、エレベーターから下書きを持って出てきた顧文君先生とばったり会いました。先生は早く戻れと促すことはなく、「青春なんだな」とつぶやいて、私たち3人と記念写真を撮ってくれたのです。同じように青春の顧文君先生、ありがとうございます。このたびで最大の収穫の一つです。
東京でも、討論会の後に日本の仲間たちと浅草寺に遊びに行って、集団写真を撮ったとき、そばにいた欧米の観光客がいたずらで割り込んできたのですが入り混じっていてよく分かりませんでした。帰ってから写真をみたらみんなの笑顔がきらきらしていて、人類みな兄弟という感じがえました。思わずデスクトップに設定してしまいました。
沖縄での1日目にはひめゆり平和祈念資料館を見学しました。記録映像を見ていたとき、ガイドさんを含め周りの多くの人が泣いていました。みんなで昔に戻ってはしゃいだところにも、とても感動しました。特に最後、出口で道路の両側に張られている見学者の感想を見たとき、そのとき亡くなった人の妹の話があり、「お姉さん、会いに来るのがこんなに遅くなってごめんなさい。今は私も86で、まもなく会いに行く年です。お姉さんはお父さんお母さんの自慢でした。……最近、足をくじいたので来るのが遅くなってごめんなさい。」とあったのですが、足早に過ぎてしまった仲間たちは見ていなかったもので、その感想を私が伝えたところ、みんながこっそりと目をぬぐっていました。そのとき、みんな優しいなと思いました。中日友好の未来はきっと善良でしっかりとした私たちが構築します。
この8日間の旅行の中で収穫した最も貴重な財産は昔の「ライバル」が友達になったことです。同じ趣味を持って同じ専門を学び、試合では互いに切磋琢磨した「ライバル」たちも非公式にはこうしたかわいくて真面目な人たちです。8日間付き合っ、昼間は先生たちに従って見学や学習体験をして、夜にはみんなで床に座ってにぎやかに笑いあい、いっしょに討論会の発表を準備して、夜中まで人

狼で遊ぶこともできました。みんなまるで古くからの友達みたいだ、きっとまた会おうねと口々に言っていました。

今回の大会を通じて私たちは見聞を広めただけでなく、友情も収穫し、さらにたくさんの優秀で親切な日本人と知り合いました。絶えず交流する中でいっそう「共通点を求め相違点を残す」ことが両国の交流にとってどれほど重要かを感じました。両国の未来を担う若者として、相手の言語を学び、相手の国に興味を持つ私にとって、先生方や会長の言い付け、メディアの期待によって交野に画より重く感じますが、時は人を待ちません。再び間もなく日本へ留学する学生にとっても、国内で引き続き学習し発展する学生にとっても、今回の体験は必ず生命の中で貴重な財産になると信じています。私たちもお互いに励ましあい、中日の友好のために自分の努力をしましょう。

最後に、今回の旅程に心血と精力を注いでくださった顧先生、吉田さん、宮内さん、李先生、夏先生、3人のガイドさん、そして同行してくださった王社長、于先生に感謝を申し上げます。命は一期一会、きっとまた皆さんに会えると信じています。(原文中国語)

華中科技大学日本語学部 4年 舒鈺雯

夢のような時間



ごく短い8日間の訪日旅行でしたが、初体験の新鮮さとすばらしい思い出は多すぎるほどあります。

東京では初めてフグを食べ、初めてそばを打ちました。東京タワーの上から眺める明かりは消えそうになっており、夜に神社を訪ねると、とても太った白猫に出会いました。楽しいシンポジウム、楽しい日本の流行文化体験、正装した私達と妖怪レストランのマッチした見事な雰囲気。沖縄のビーチでは色とりどりのサンゴと青い海の組み合わせが見きれないほど素敵でした。みんなの勢いよく脱いだ集合写真はずっと秘蔵します。ひめゆり平和祈念資料館では歴史を戒めとする涙の訴えを聞き、銀閣寺は歴史の重々しい山水に囲まれていました。有馬温泉の天にも昇りそうな澄みきった優しさ……忘れ難いものはあまりにもたくさんです。

しかし一番忘れられないのは愛すべき先生方と仲間たちです。一人で出かけるとひとりぼっちが怖いものですが、今回の訪日団はみんながすばらしい人でした。吉田さん、宮内さん、顧先生は冬休みから旅行計画を立て始めてくださり、同行した武漢大学の先生2人とガイドさん3人もとても親切で、道中は一心に気を配っていただけました。さらに仲間が携帯電話をなくすエピソードが2回あり、とても感動しました。同行した仲間は言うに及ばずです。真夜中2時頃の人狼ゲーム、みんなお手製のスタンプ、日本の街を圧倒したみんなの歌声、一つ一つのシーンがうきうきとしたBGM付きで脳裏に残っています。日本の仲間たちはシンポジウムにも活動コースの設定にもかなりの心血を注いでくれて、いろいろ話し合っていると、本当に親切さ距離の近づく感じがしました。そして沖縄のお兄さんから国と世界経済の見方を聞いて、視野を広げ自分の意見を持つことがどんなに重要か分かりました。出会うことができたみんなが神に愛された人です。すべての人に感謝しています。帰国してすでに3日になりますが、まだ旅の途中のような感覚になっています。あの日々を過ごしてあこがれが経験に変わり、また体験から生活に帰ってきました。努力して生活し、世界のどこかで再会できることを期待しています。(原文日本語)

★「笹川作文コンクール」訪日団

浙江農林大学 日本語科 4年 童瑤



この8日間の日程を思い出すと夢のようで、また、何ヶ月か前に北京の人民中国雑誌社からの電話を受けたとき信じられなくて詐欺の電話なのではと自分を疑うほどでした。出発する前日に慌ただしく北京へ駆けつけると、北京はちょうど初雪で、王社長は本当に良い前兆だとおっしゃっていました。道中きらきらと透明な雪片が服と髪の毛を見ていると、少しうれしい気持ちになってきて、これから始まる毎日がきっと新しい日々には違いないと思いました。

案の定、それからの8日の間に出会ったのはすべて新しい景色で、知りあったのは誰もが愛すべき人でした。

1日目は依然として移動で慌ただしく、東京タワーに着いた瞬間やっと自分が本当に東京に来たのだと感じました。いっしょに初めて夕食を食べ、みんなが歌って踊って緊張しつつも楽しい雰囲気になり、初めて空腹でよだれを流しながら仲間とそばを打ち、そして初めて有意義な交流会に参加して、親切でかわいい異国の友達と知り合いました。浅草で幸運を祈り、スカイツリーで嵐の桜井君と一緒にセルフイーをgetしました。日程が慌ただしく表面をざっと見るだけではありましたが、すべての笑顔と光景はしっかりと心に刻まれています。

最も印象深いのはやはり沖縄での3日の時間です。にぎやかな俗世間を遠離れた小島に身を置くと、太平洋には優しく美しい風が吹いていました。到着した日は雨で、みんなが重い気持ちでひめゆり平和祈念資料館を見学しましたが、館外では四季の草花が色とりどりに花園を飾り、熱帯の入り乱れている光景が一望で見渡せました。おおかたみんなのすばらしい願いが託されているのでしょう。どこの国でも民族でも平和は十分に貴重なので、私たちがしっかりと守り続け、ひめゆりの花のように美しく輝かせられたらと思います。翌日はサンゴ養殖場に行きました。サンゴが人工養殖だということをこのとき初めて知りました。海は果てしなく、海風が吹いているとき、ここで生まれて毎日このような美しい景色に向き合っている沖縄の人の心は広々としているはずだと思いました。

沖縄の旅が終わるとまた一刻の休みもなく大阪に駆けつけましたが、飛行機を下りてまずは神戸に行き温泉に浸かりました。何日も奔走した後に初めてすっかり心身ともリラックスして山中の温泉に入っていると、立ちこめる湯煙で自分が仙女のように感じました。ここで8日間のほとんどが過ぎ去ってしまいました。最終日は早朝から京都に行きました。かつて半年ほど京都で生活したことがあるので、同じ風景が目の前に現れたとき懐かしさと感激で胸がいっぱいになりました。数え切れないほど行った清水寺はあいにく改修工事中で一番いい状態を見ることはできませんでしたが、知り合ったばかりなのに十分に息が合う友達とぴいちくばあちくいいながら同じ道を歩くのは全く違う心境でした。それから午後は大阪で買い物を堪能しました。大阪のにぎやかさは東京のにぎわいとまったく違う風味だといつも感じます。東京は作り込まれていてリズムがありますが、大阪では人間の生活臭が向こうからやってくるのでとても親しみやすいのです。

ここまでで日程表上の行程が終わり、翌朝にはみんな帰国の途につきました。一人一人とのお別れに間に合わない人もいました。幸運にもこのような胸に大志を抱くと同時にかわいくて活発な同年代の人たちに出会うことができ、主催してくださった人民中国雑誌社、日本財団、日本科学協会に感謝します。ずっと私たちを助け独り一人を導いてくださってありがとうございました。皆様のご足労と心のもった計画がなければ、この一生忘れられない8日間の旅はありませんでした。これからの毎日も、これまで蓄積してきた気づきと感謝を胸に、新しい日々を過ごしたいと希望しています。(原文中国語)

北京外国語大学日本語学科 3年 馮心鶴

訪日感想文



二月の下旬、日本科学協会のお招きにあずかり、人民中国雑誌社の方々と武漢大学の先生方の指導の下で、私たち一行中国人大学生・院生が日本を訪れました。みんな学年も違い、大学も違い、地域も違うが、日本に対する関心はおそらく同じものでしょう。

こうしたほとんどお互いに初対面の訪日団メンバーたちが、日本でまた初対面の日本人大学生や招待側の方々と知り合い、素晴らしい八日間を送ってきました。

数え切れないほどの思い出ができたにせよ、ここでまず取り上げたいのは、日本で経験した様々な体験です。坐禅体験、そば打ち体験、空手体験、珊瑚作り体験など。体験という以上、短い間ですべてのノウハウを身につけることは無理に決まっています。しかし、こんなわずかな時間であっても、興味をそそられるには十分でした。またやりたいという気持ちが確かにはぐくまれました。本物はさほど容易にできるものではないと知っていながらも、とにかく可能性を切り開くではありませんか。

「千里の道も一歩から」という中国のことわざが思い出されました。そして、私たちの訪日活動も、そういった体験とどこかで結びつかれているように思います。わずか八日間で私たちに何ができるのですか。日本を知りました、というような大げさなことは口にできません。ただ、ありがとうと言いたい、もっと知りたいと言いたいです。このようなチャンスに恵まれた私たちが中日友好の道において小さな一歩でも成れたらと思います。

「半日間でこんなに仲良くなれるって不思議だね」と、グループ行動で慶応義塾大学を案内してくれた M ちゃんが言っていました。私にも不思議でしたが、うれしかったです。このような不思議なことがもっともっとできてほしいです。「仲良い」というのは抽象的な言葉で、印とか証拠とかはっきりと上げられないほどおぼつかなく見えますが、この一つの言葉を口にするだけで、その響きに歓喜を覚えます。そして、初春の薄寒さも、東京地下鉄の複雑な線路も、沖縄民謡に合わせた三味線の音も、雨越しに見たプリントアウトに向く姿も、とにかく一緒に過ごした時間が頭の中に湧いてきます。このような思い出を温めたことで、私たちは日本に来る前の自分と比べてもっと豊かになったような気がします。それはあえて小さな一歩に数えましょう。

今回の経験を通じて、「仲良い」という言葉の力を、「仲良い」からの始まりを信じていきたいと思います。(原文日本語)

東華大学日本語科 3年 吳永潔

訪日の感想



今回の訪日は人生初の体験だと言えます。初めて受賞して、初めて遊学して、初めて日本を経験しました。初めてぶつかったこともたくさんあったので、今回の旅はとりわけ深く心に残る気がします。

成田空港に着陸して飛行機の窓から外を見ていて、教科書で3年学んできた国の土地にいらんだと思いつくと、見たこともないのに理解しあっている古い友人に会うかのように緊張と興奮が胸のうちに満ちあふれ始めました。一体ちゃんとつきあうことができるのか、期待でいっぱいだったのです。

1 日目みんなと合流したときはまだよそよそしくて、わずか 8 日間の旅でそれほど仲良くなるとは恐らく誰も想像していなかったでしょう。夜の歓迎会の上で、フグの故郷で育ったのに食べたことがなかったフグの刺身を食べてみると、他の魚の身と違って歯ごたえがよく、特製の醤油と合っていてとても美味でした。お酒が入ると、みんなは歌やダンスを始め、空港で出会ったときの恥ずかしさやよそよそしさが全然なくなり、十何年もつきあいのある友達のように談笑し楽しみました。

翌日の早朝にホテルを発って訪れたのは非常に静かな場所で、一休和尚が過ごしたという香林院です。年配の和尚さんが早くから禅室で待っていて、私たちは畳にあぐらをかいて仏教の一般的な知識を聞きました。すぐさま 30 分の座禅を始めると、当初こそまだ心に余力があると感じていましたが、だんだん痺れだして最後には全身がしびれて動けなくなり、内心では「これほど大変ではどう考えても頭いっぱいとなるといつまでかかれば終わるのやら」と思っていました。そんなことを考えながら、和尚さんが終わりの鐘を鳴らすとみんなは重荷を下ろしたような様子でした。みんなは真面目だと思うと、自分だけが疲れたようで、本当にかわいいと思いました。疲れた体を引きずってそば打ち体験に行くと、先生が麺のこね方や切り方を一つずつ見せてくれました。みんなは改めて力を注入されたようでしたが、私と仲間たちは失敗作を食べるのが怖くて一生懸命努力して麺をこねました。原材料から食材に触れたのも初めてで、本当に忘れられません。

3 日目が今回の遊学で最も重要な日だったかと思います。二十数人の日本の大学生と中日の向こう 30 年の関係について交流するイベントで、また中日のメディアが多く招かれるというのです。その話を知ると私達はみんな非常に興奮し、前日夜にホテルでチームに分かれ緊張して準備を始めました。翌日みんなはおのこの自分の意見を述べて、十分に若者の想像力を発揮し、未来に対するすばらしい構想を展開しました。当初は非常に厳粛な討論会かと思いましたが、実は和気あいあいとしていました。討論会が終わると、日本の学生たちがチームに分かれて観光の案内をしてくれました。ちょうど「感知日本」の作文で書いたように、自分の母語で話しかけられると理由もなく好感を覚えます。たとえば私のチームの日高将博さんと浜田麻衣さんが、私の中国語を聞いて分かってくれたとき、とても親しみを感じました。同じチームの石塚妃香里さんはマネージャーのように一人一人を世話してくれて、しゃべるのこそ得意でなさそうでしたが、彼女の優しさはしっかりと善意を伝えてくれました。

4 日目には沖縄に向かいました。空港にはガイドの絹さんが迎えにきており、台湾の人で、話の上手な人でした。ホテル行きに間に合わないの先にひめゆり平和祈念資料館へ行くと、説明映像を見ているとき日本語ができないメンバーに配慮して絹さんが訳してくれました。感情が高ぶるところで彼女は涙を浮かべておりとてもいい人だと思いました。同館を見学し終わってすこぶる深い感慨を覚えました。言葉で表現できるのは世界平和を望むということだけでしょう。

5 日目は沖縄の大学生達と楽しい一日を過ごしました。悠野さんの入念な手配で、ゴミ処理工場と一緒に見学し、サンゴの植え付けも体験して、海底の生き生きとした小さな命たちを見ました。夜にまた環境問題について討論しました。中国も日本の先進的な思想と技術を学んで早く自国の環境を改善できればと思います。

6 日目は竜船の発祥地と空手会館を見学して、沖縄の多面的な文化を感じました。それから神戸へ向かって温泉を体験し、1 週間で疲れた体がとても癒やされ満足できました。

最終日は教科書でもよく見る清水寺と金閣寺を訪れ、敬虔な信者である私も幸い日本の仏の文化が中国とやはり大きく異なるということを体得できました。旅程全体の最後には親切にもショッピングの時間が設けられており、日本の町並みで爆買いする楽しみも体験できました。

すばらしい時間はあっという間で、とうとうお別れの時を迎え、ずっと奔走してくれていた吉田さん、宮内さん願先生を前にすると、言いたくても言葉にならない思いがたくさん湧いてきました。保安検査の前に吉田さんが私の手を握ってさよならを言ってくれ、名残惜しい気持ちになりました。また会える時が来ることを願うばかりです。(原文中国語)

訪日の感想



日本はとても普通の国です。そう、いたって普通です。どうして普通だと言えるのかというと、私は日本に行くまでずっと、中国とは違うはずだと思っていましたが、国のイデオロギー、文化や経済発展の程度は違っても、日本の普通の人は中国の人と同じように普通の生活をしているのだと、日本で交流した1週間の中で深く理解したからです。

日本の大学生は中国の大学生同じように、卒業の時期は就職などのさまざまな問題に直面しています。中国の若い人の中では、よく知っている友達同士でいろいろ冗談を言い、特に親しいと互いにからかいあったりもします。人に迷惑をかけたがらない日本人はそういう方法で友人とふざけないのかもしれないですが、しかし沖縄で現地の大学生と交流した後、そもそも世界の若い人はすべてほぼ同じなのだと感じました。

日本に行く前に接触した数人の日本人は誰も礼儀正しく、一般的にも日本はとても礼儀正しい国だと知られていますが、私たち訪日団の数人が外出しようとエレベーターに乗って、私が下りボタンを押そうとしたとき日本の女の子が後ろから割り込んでさっさと上りボタンを押したので13階まで連れて行かれてしまいました。そのとき、日本人みんなが礼儀正しいのではなく、優しい日本人は多いがそうでもない日本人もいるのだと気づいたのです。そのあたりは中国と似ています。中国人は大部分がとても親切ですが、たとえ「中国が最も良い国だ」と色眼鏡をかけて見ている私でも、中国にも冷ややかな人がたくさんいることは認めざるをえません。世界各地が同じようなものなのでしょう、レッテルを張ってひとつの地方や人々を識別することはできませんね。

私は日本の大通りが特に好きで、最も深く感じたのは日本人の庭とさまざまな緑です。家の外には、とても小さい場所であっても日本人は小さい庭を設け、特に小さくて庭を設けられないときは花や草を鉢植えにして屋内で育てるところに、生活を心から愛する姿が感じられました。生活を大事にするのはどこでもみんな同じで、この点から言うと、日本もやはり普通の国なのです。

とても普通の国ではありますが、日本の環境は確かにとても良く、環境管理の改善の面では確かに中国の学ぶ必要がある場所がたくさんあります。ですが私の祖国がだんだん良くなり、だんだん美しくなることも私は信じています。(原文中国語)

★「本を味わい日本を知る」作文コンクール」訪日団

北京大学法学院商法修士課程 2年 汪書璇

日本の旅で感じたこと



初めに、貴重な日本8日間の旅という機会を下さった日本科学協会と日本財団のご支持にととても感謝しております。8日の間に無数の美しい景色を見て、たくさんの面白い友好的な友達と知り合い、日本についてより多く明瞭な理解ができました。

出発が近づいたころ、日本科学協会が親切にもみんなに送ってくれた日程表が、毎日の天気まで詳しくあったことにととても安心と感動を覚えました。1日目の夜は美味しいフグ料理を食べ、みんなできいしょに「世界で一つだけの花」を歌って歓談しました。楽しい日本の旅はうれしい雰囲気の中で幕を開けたのです。8日間の旅はとても豊富だったため、拙筆では一つ一つ述べにくいので、ひとまず印象の深い2件の経験に触れたいと思います。

ひとつは2月24日の日本の大学生たちとの交流活動です。みんなはグループに分かれて中日の若者の交流について熱烈な討論を展開しました。日本の仲間たちは心のこもった準備をしてくれて、みんなとても友好的でスマートでした。会場のBGMには嵐とTFBoysの歌が流れ、交流のテーマと呼応していました。私たちは両国の若者が興味を持つ文化、景色、社会について交流して、視野が広がったように感じました。いくつか非常に面白い話題もあり、例えば晩婚化や住宅価格など、日本の仲間たちの活発な思考と話の内容や言葉遣いの魅力が感じられました。午後には浅草寺とスカイツリーへ行きました。案内をしてくれた佐野桃子さん、帯津依里さん、野尻千夏さんと柳一昌さん、台期霖さんには特に感謝しています。佐野さんはキャンパス上にみんなの感想を書かせて写真で記録してくれました。とても面白くて注意深いと感じました。彼女は日程の中でもずっとみんながばらばらにならないように気を遣ってくれて、とてもかわいい彼らが好きになりました。地下鉄でちょっとした問題が起きたとき、地下鉄のスタッフもかなり辛抱強く質問に答えてくれて、とても優しい勤務態度にいたく感動しました。

もうひとつの印象に残っていることは、沖縄でごみの回収処理システムを見学したことです。そこから日本のごみの分別と回収処理の制度と技術を知り、参考にする価値がとてもあると感じました。普通の住民はごみ捨てについて、学校で正しいごみの分別法を教育されており、メディアもみんながごみ分別の良好な習慣を形成するように導いています。環境はみんなで大切にする必要があります。ごみ処理システムの見学で、ごみを分解処理して建築材料、容器さらには衣類の製造に利用し、資源の循環利用を形成していることが分かりました。室内にごみの分別、高温分解、圧縮などの一連の流れを全行程で監視するモニター室があり、機械はとても近代的で、理念が科学的で、自分の身边でも次第に一人一人が注意深くごみを分類する習慣を形成できれば中国の環境も次第に良くなると思いました。

最後に改めて、みんなの旅のために多くの努力を払ってくださった吉田さん、宮内さん、顧文君先生の真剣さ、責任感、優しさに感謝します。本当にありがとうございました！（原文中国語）

雲南大学大学文化発展研究院文化産業修士課程 3年 龐昆靜

訪日の感想



計画性があまりないと自覚している私は、いつも言い出してすぐ出かける旅行が好きで、急にやってくる喜びと感動が好きです。私は自分がとてもわがままでとても不注意なことは分かっています。生きていれば多くの意外なことに出会います。そう、もちろん良くないことも忽然とやってきます。

2017年2月22日に短い日本旅行が軽やかな足どりで現れたのは、意外な喜びと言ってもオーバーではありません。しかし東京から沖縄に移動中、私は不幸にも携帯電話を飛行機で落としてしまいました。私はものをなくすことには慣れっこで、また起きただけのことでしたが、私はその時まだ惜しいなと思いました。残しておきたい風景や愛すべき人々の写真がたくさん入っていることが惜しかったのです。随行している先生が繰り返し、携帯電話を本当に飛行機で落としたのか、どこでなくした可能性があるのか、座席上か、シートポケットか、それとも弁当箱に入れたのかと確認してくれました。そして自信ありげに、もし飛行機内であればきっと見つかるから心配ないと慰めてくれたのです。何故かすぐ信頼できる気がしました。また同行していた他の学生1人も携帯電話をなくしたのですが取り戻すことができていたので、携帯電話を取り戻せる自信が強くなり、言い表せない安心感がありました。続く旅行の中で、私はとても楽しく遊び、携帯電話の心配をまったく忘れ、きっと彼らが見つけてくれると確信していました。後に沖縄から空港へ戻るとすんなり携帯電話を返してもらうことができ、

気持ちはとても落ち着きましたが、奥底ではひととき感慨深いと感じていました。この国の人には信用する感覚が起き、言い表せないながら、彼らが言うことは信じられ、彼らがやり遂げることを信じられるのです。自分も自覚していなくともこのような文化に溶け込んで行けば、努力して自分が承諾したことをやり遂げるでしょう。他の人もそうすることを知っているからです。ここの人々は互いに信用しあって、共に安全な雰囲気を作っているのです、なくしたものが見つからない心配をすることがありません。かえって要らないものを忘れたとき他の人が落とし物だと思ってはるばる送ってくれることのほうが心配です。ホテルではタオル、寝床がとてもきれいで、トイレの便器がとても清潔だと確信できます。レストランでは体に悪いものが食品に添加されている心配の必要がありません。言葉にならない信頼感と安心、同じような感覚があなたにもあるでしょうか。(原文中国語)